



## 雄勝に行ってきましたの巻。

今年の4月末に、母の実家を訪ねました。(担当:久保)  
母の実家があるのは「宮城県石巻市雄勝町羽坂」。  
雄勝町という震災関連のニュースで、公民館の屋上に  
バスが乗っかっていてる映像を思い出す方も多いのではないのでしょうか。母の実家がある羽坂はその雄勝町中心部からさらに奥にある集落の一つです。名前にあるように海からすぐ急な坂という地形のため、津波では海側の数軒が流されましたが、羽坂の皆さんは無事でした。



**雄勝法印神楽** 雄勝町には「雄勝法印神楽」というお神楽が伝わっています。古くは近隣で修行する修験者が伝えてきたもので、刀を使った雄々しい舞や、独特な太鼓のリズムなどが特徴です。震災により、この神楽も存続の危機にありました。太鼓や衣装、面などの道具類がほとんど流されてしまったのです。しかし、地元の人々の思い、それに応えてくれる支援の輪により道具が少しずつ集められ、驚く程早い期間で復活していきます。その様子は映画監督 手塚眞さんにより短編映画にもなりました。



毎年、雄勝町内各地の神社などに奉納されるのですが、今年は羽坂で奉納される日が休日にあたり、私も見に行けることに。羽坂で見るのは私も初めて。普段は何も無い公園の隣の広場に仮設の舞台が組まれます。当日少し遅れて着くと、広場には普段は見かけない若い人がたくさん。外国人の姿まで！...？羽坂にボランティアで来ている若者たちでした。我々のような帰省組は彼らの姿に驚いていましたが、逆に羽坂の皆さんはすっかり慣れた様子で舞台上に夢中。なんだか素敵な光景でした。

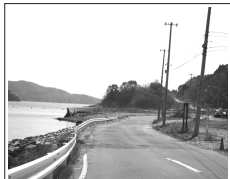
## 津波にあった町の様子(2013年.4月末)

道中で見た雄勝町市街部。何も知らずに来たら、造成中の埋立地かと思うのではないのでしょうか。埃が舞う更地。ガレキの撤去が大分終わり、残っている学校などの建物や、海沿いのガードレールに大きな力の跡が。これらも徐々に撤去されるようです。子供の頃、夏休みに毎年見ていた町並みを思い出すのですが、どこにも重ねることができませんでした。

帰りに牡鹿半島の方も少し回りました。リアス式海岸をいく道は、海沿いの小さな集落→山の中→海沿いの集落、を繰り返します。集落だった場所は更地となり一軒の建物も無い。山の上には仮設住宅。細かい状況は場所ごと異なりますが、そんな景色が繰り返します。

山道を下って視界が開けるたび「何か」を期待してしまい、そして「また」と思ってしまう

山の上から見下ろす海は、緑がかった深い紺色。いつもの美しい石巻の海の色でした。



## 34(ミホ)のオススメ紹介 『NamaKiss』さんのローチョココレート

100%オーガニックの生カカオとアガベシロップで出来ている全植物性。高温加熱していないので、栄養素と酵素の恵みがいきています。ずっと溶けると共にコクと香りが広がり... 5大アレルギー不使用  
作者 kaeさんの美しいハートがギュッと詰まったチョコ達は、2個入り・10個入り・ブラウニーの3種類。プレゼントに最適です♪

## フクコおばさんのミラクル

羽坂にある私の母の実家は坂の上。海からは随分な高さがあります。母の義姉のフクコさんが一人暮らししていますが、震災直後の連絡が全くとれない状況でも、親戚一同あそこは大丈夫だからと安心してました。しかしあの日、フクコさんは石巻に車で出かけていました。地震発生時は帰り道。高速を出た道の駅で車を止めて迷ったのですが、雪もちらついて来たら、家は安全だから早く帰ろうと思いき車を出します。(買ったばかりの液晶テレビも心配で(笑))北上川沿いの道を川下へ、新北上大橋の交差点で左折しトンネルを抜けると雄勝町中心部という道のりです。(その交差点の向こうは大川小学校)橋のそばの交差点にさしかかると、誰かが交通整理しており、フクコさんは左折待ちをしていました。そのあたりから川はカーブしていて、海はもちろん川面も見えません。そこへ前触れ無く訪れた津波に、車は流されてしまいます。車内はすぐに浸水はしませんが、フロントガラスがひび割れ危険な状態です。フクコさんは後部座席に移ります。ふと気づくと後部座席の窓がきれいに外れていたそうです。(車体が歪んだせい?)そこからフクコさんは脱出し、なんとか水面に顔を出します。右も左も分からない中、「こっちだ! あがってこーい!」と声が。ガレキが散乱していましたが、フクコさんが行こうとする道だけ、すーっと遮るものがなく、泳げたそうです。そうしてたどり着き、声を掛けてくれた男性に引っ張りあげてもらったのでした。こんな話をしながらも、フクコさんは優しくチャージング。助けてくれた男性に服を貸してもらえないかと頼むのとっても恥ずかしかった、とか、しばらくトンネルに避難していたのだけど、雄勝の方から人が来てこっちの避難所に物も届くから来なさいと言われたときも「こんな格好でおりに行くのが恥ずかしくて」なんて(笑)。大変な体験をして、故郷は人も土地も大きな傷を受けていて、それでもフクコさんは、いつもの優しい笑顔を見せてくれました。フクコさんは今も羽坂で暮らしています。生活は色々大変なこともあります。近所の皆さんと「浜のおばちゃん」を結成し、手芸品や海藻を使ったふりかけを作ってイベントで売ったりしています。ボランティアの若者が沢山くるときは、皆でご飯を振る舞ったりもしているそうです。

## MASAYO ROOM

8月上旬の三日間、スタッフ全員で、食事を非加熱食だけに『100%ロー生活』に挑戦。生の食物は、それ自体がもつ“酵素”の働きで消化エネルギーが節約出来るとか。やってみると『身体が軽い!』もちろん個人差はありますが夏バテ気味の身体にはオススメ。『ローフード』調べてみて下さい。

今号の特集はいかがでしたか? 日頃から“ヴィーガン”という(一般的な言葉では)限定的な食べ物で暮らし、更に“RBR 人体実験シリーズ”として『カフェインフリー』『砂糖抜き』『グルテン(小麦)フリー』『100%ロー生活』等一風変わった食生活を試しているRBRスタッフ。街中に溢れている食べ物にちょっとした選択基準を設ける事で出てくる世の中の非常に興味深い側面について、スタッフ同士でよく話合います。分析的で客観的かつユニークな見解を披露してくれる小紙の編集長こと真理子さんが担当した『石巻・雄勝ルポ』堪能して頂けたら幸いです。編集後記でした! (HIRO)

Facebook: [www.facebook.com/rainbow.bird.rendezvous](http://www.facebook.com/rainbow.bird.rendezvous)  
Twitter: @cafeRBR <https://twitter.com/cafeRBR>

## ミナちゃんのfuzzyな日常

